

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学術)	氏名	高梨 雄太
学位授与の要件	学位規則第4条第1・②項該当		
論 文 題 目			
陸上競技投擲種目におけるフィールドテストのあり方 －大学生競技者を対象とした実践的研究－			
論文審査担当者			
主 査	教 授 和田 正信		印
審査委員	教 授 長谷川 博		印
審査委員	教 授 岩永 誠		印
審査委員	教 授 吉田 孝久 (日本女子体育大学・スポーツ科学研究科)		印
〔論文審査の要旨〕			
<p>フィールドテストとは、スポーツ選手の体力を評価するために行われるテストを指す。競技スポーツを対象としたトレーニング計画では、トレーニングの有効性の評価あるいは改善が必要な身体能力の特定などを目的として、フィールドテストが定期的に組み込まれることが多い。本論文の目的は、陸上競技投擲種目を対象に、複数種目（やり投、砲丸投、円盤投およびハンマー投）の投擲競技者に対して、共通して用いることのできるフィールドテスト種目を特定することであった。ここで問題となることは、異なる種目間の記録をどのように評価するかである。国際陸上競技連盟 (IAAF) は、IAAF score と呼ばれる、陸上競技における各種目の記録を得点化したものを提示しており、本論文の特徴は、競技成績の評価にこれを用いたことにある。</p> <p>論文は、緒言 (1章)、実験 1 (2章)、実験 2 (3章)、実験 3 (4章)、討論 (5章) および総括 (6章) の 6章から構成されている。1章では、先行研究で得られた知見を概説し、本研究の目的が設定された背景および 3つの実験における目的が明確に述べられている。3つの実験は、どれも男子大学生投擲競技者を被検者としたものであった。2章では、これまでフィールドテストとして用いられてきた種目の有用性について検討し、競技力をよく反映したテスト種目は立幅跳びおよび反動を用いないスクワットジャンプであること、反映しない種目は 30 m 走および負荷 1.0 kp での自転車エルゴメーターテストであることが認められている。また、スクワットジャンプでは、その変化率と競技成績の変化率との間に、正の相関関係があることも観察されている。同章の考察では、競技力を反映しなかったテスト種目では、テストにおける運動継続時間あるいは運動強度に問題があるのではないかと述べられている。これを受けて 3章では、それらのテスト種目に変更を加えた影響を検討し、5 kp で 1.0～2.0 秒で運動が終了する自転車エルゴメーターテストが、下半身の体力を評価するうえで有用であることが認められている。4章では、上半身の体力を評価するテスト種目について検討し、座位での反動を用いないメディシンボール投げが、競技力をよく反映したテスト種目であることが示されている。5章では、フィールドテストとして有用であることが認められたテスト種目の運動特性、個性に応じたフィールドテストの活用法などについて総合的に考察されているとともに、今後の課題が記されている。</p>			

これまで、競技スポーツのトレーニングの実践現場において、フィールドテストは頻繁に活用されてきた。しかしながら、用いられている殆どのテスト種目は、慣例とされてきたものであり、それぞれの種目の有用性について、科学的な実験に基づいた吟味はなされてこなかった。本論文に示される実験結果は、(1) 技術的関与が少ない運動であること、(2) 反動動作を用いない運動であること、(3) 短時間で大きなパワーが発揮される運動であることの3つを充足するテスト種目が、フィールドテストとして高い価値を持つことを明示しており、スポーツ科学の研究領域に一石を投じることになるであろう。また、本研究の成果が実践現場で応用されるようになれば、世界から取り残されてきた日本の投擲種目の競技力向上に寄与することが期待される。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。